

# 松任城の歴史について

松任城は、JR松任駅南の古城町を中心に殿町、西新町にまたがってあったといわれ、平安時代末期に、当地を支配していた松任氏の館として成立し、後に一向一揆の旗本である「松任組」の本拠地として城砦の形が整えられてきました。

天正5年(1577年)に上洛を目指す上杉謙信に攻撃を受けますが、その時の城主・鏑木頼信が和睦にまで持ち込んだといわれています。これは、松任城の南約6kmの水島付近に、七尾城を目指す織田軍が既に陣を構えていたからでしょう。しかし、織田軍は謙信が七尾城を攻略したとの知らせを受けるやいなや、夜半に退去しはじめます。手取川は数日来の雨で氾濫しており、謙信はこの機を逃さず松任城より水島へ兵を進めます。この手取川の戦いは、謙信と信長の最初で最後の戦いとして有名です。

この松任城も天正8年(1580年)織田軍の柴田勝家により落城し、鳥越城主・鈴木出羽守までもが、この城に呼び出され謀殺されてしまいます。日本史上類例のない100年の長きにわたり続いた百姓の持ちたる国は、ついに終焉を迎え、その後、織田方の城として、加賀藩二代藩主となつた前田利長が3年間、丹羽長重が11年間在城し、この頃に平城として整えられました。

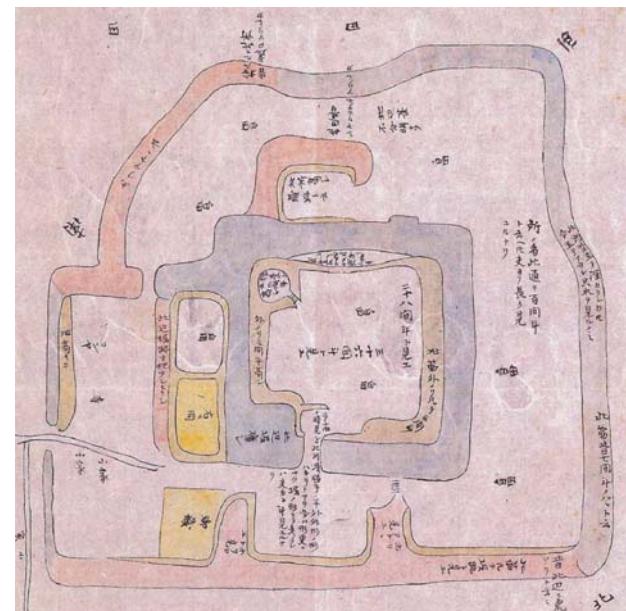
しかし、松任4万石として栄え、手取扇状地の中心であつた松任城は、江戸幕府の一国一城政策により慶長19年(1614年)ごろに廃城となりました。

## 松任城とはどんな城だったのか

松任城にどのような建物があったかを示す史料は確認されていませんが、廢城の約60年後に写された「松任城古図」によれば、本丸、二ノ丸、三ノ丸、矢倉台、出丸等の郭を備え、それらは幅9~23mの水堀や、空堀、土塁により守られていました。外堀で区画された城域は、南北305m、東西301m余であったと推測されます。

## 松任城の区域を示す石碑

昭和34年、松任城址保存会により、広大な松任城址の区域を示す高さ1mほどの石碑が、松任金剣宮・JR松任駅南・北陸信用金庫・聖興寺・信誠寺にそれぞれ建立されています。



### 【松任古城之図】

## 松任城周辺地図及びかつての城の規模



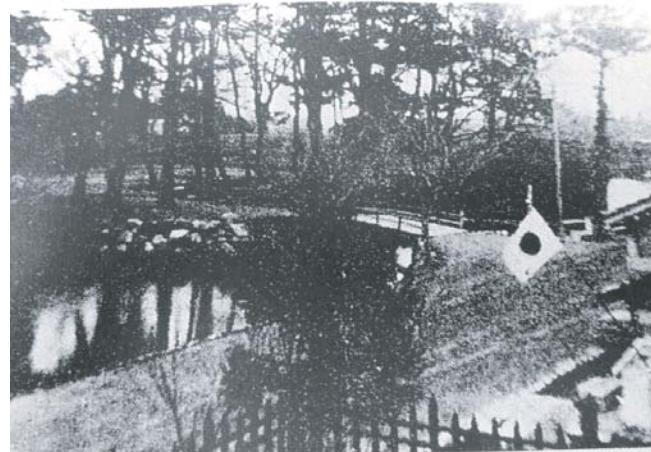
# 公園の今昔

現在、本丸跡は松任城址公園となっていますが、二ノ丸、三ノ丸、出丸等は、松任文化会館・松任学習センター・千代女の里俳句館が建ち、その面影を全く留めておらず、わずかに残っていた石垣は、本丸の周囲を取り囲む内堀の位置を示すと推定され、平成22年の公園再整備時、その位置に石垣が整備されています。また、内堀は、明治23年頃に堀り直され、貸しボートや屋形船、釣掘として利用されていました。

明治初年の地籍図によると、内堀の幅は約20m程と推定でき、堀は昭和8年ごろより埋め立てが進み、現在は道路や公園に姿を変えています。また、寛政9年(1797年)の「松任古城之図」によれば、園内の南西隅には、高さ3.6mの櫓台があったとされています。

大正2年(1913年)からは、一部が遊園地(蕪城園)として利用されるとともに、大正13年には当時としてはモダンな洋風建築の石川郡役所が建設されました。

この郡役所はその後、郡制廃止により昭和9年(1934年)からは松任警察署として利用され、昭和31年に警察署がハツ矢町に移転後は、図書館としても利用されました。その後、昭和41年に公園整備のため取り壊され、昭和42年に「おがりや公園」となり、平成19年(2007年)に「松任城址公園」に改名されました。



## 【明治40年頃の城址公園】



## 【松任城址にあった松任警察署】

## 松任城址公園の再整備

松任城址公園は、松任城本丸跡地に位置し、水掘などの歴史的遺構の多くは失われていますが、当時をしのぶ大ケヤキ、櫻土盛りや内堀跡などが残されており、平成22年度の再整備では、中央通り側の内堀石垣跡に石垣と堀跡に芝を整備するとともに当時の橋をイメージした太鼓橋を設置するなど、松任城址としての歴史性を保全しながら「市民の憩いと語らいの場」として利用されるよう園内通路をバリアフリー化しています。

## The History of Matto Castle

Matto Castle was built as the home for Lord Matto at the end of the Heian Period, and then was formed into the base for the Mattogumi during an Ikko uprising. However, the 40,000koku of Matto Castle in the man-madefan shape were taken apart with the destruction of the castle around 1614 as part of the Edo Shogunate's policy of one castle per province. Despite the lack of accepted historical documents from Matto Castle, ancient maps of Matto Castle show a main keep(Honmaru), secondary ring(Ninomaru), tertiary ring(Sannomaru), archer towers(Yaguradai), an outer perimeter(Demaru)and other defenses, with 9 to 23 meter moats with and without water and embankments guarding each space with the outermost moat measured at 305 meters north to south and 301 meters east to west. Thereafter it was partially used as an amusement park (Bujo-en) in 1913, saw the construction of the western style Ishikawa District Office in 1924, and after further use by the Matto Police Office and Library, was made into a park in 1966 with the removal of these buildings. Today the remains of the main keep are Matto Castle Ruin Park, and land of the secondary, tertiary, and outer perimeters completely used by the Matto Cultural Hall, Matto Learning Center, Chiyo-Jo no Sato Haiku Museum and other facilities with the only remaining rock walls evident in the position of the inner moat around the main keep. In 2010, the park was remodeled with rock walls, a replica of Taiko Bridge of the time and barrier free paths, so residents can have a place to rest and converse while admiring these historical features.

